

「馬への感謝」

育成調教技術者養成研修 第31期生 鈴木 隆矢

高校の部活動で馬と関わってきた私は、自然と牧場で働きたいと思うようになっていました。しかし、やるからには必要な知識と技術を持って、即戦力として働きたいとも思っていました。そんな中で、BTCという施設を紹介してもらい、整った設備と恵まれた環境に魅力を感じ、幸運にも研修生として入講することができ、最初の一步を踏み出すことになりました。

研修が始まると、新しいことを教えてもらえて、毎日が楽しくて仕方ありませんでした。一日過ぎるのはあっという間で、気がつくともうすでに半年という時間が過ぎていました。時間の流れが早いのは、馬に乗ることができるからです。一日の一番の楽しみであると同時に、自分の技術を磨くことができる騎乗訓練は、最初の頃は乗馬との違いに戸惑い、腰が痛くなったりしていました。落馬もしました。思い通りに行かないことも多くありました。それでも音をあげずに続けられているのは、馬に乗ることが好きでたまらないからです。一日に二鞍、モックアウトがある日などはもう一鞍騎乗でき、毎日少しずつ訓練してきたことで、着実に上手くなっていることを実感できます。

最初は個人のレベルに合わせて、丸馬場や覆馬場で部班や前傾姿勢の練習をし、皆が乗れるようになってきたら全員で部班運動をしました。その後、角馬場で屋外での騎乗に慣れ、そして走路での騎乗訓練に入りました。走路ではペースを考えて乗ったり、二騎併走をしたりといった競走馬の調教と同様の訓練に入りましたが、馬がやる気満々になって、抑えきれずにオーバーペースになってしまうこともよくありました。走路だけでなく、覆馬場や角馬場でも私たち研

修生が下手な騎乗をすることによって、馬に多大な負担をかけています。中には高齢で、駈歩を続けることがつらい馬や、鞍傷や跛行をしている馬などもいて、本当に無理をさせていると思います。

ある日、教官が私達に向けて、「君達は馬を犠牲にしているのだ。馬に感謝して乗りなさい」と言われました。私達が上手くなるためには当然馬が必要で、そのせいで馬に負担をかけているのは間違いありません。しかし、乗せてもらうことは当然なのでしょうか？そんなはずはありません。私達のせいで馬は毎日疲れることになるのですから、恩返すことが当たり前だと思います。例えば、それが手入れだったり、馬房の清掃だったり、馬に快適に過ごしてもらえたら、私は教官の言葉で改めて考えさせられました。

馬を健康に過ごさせる。代わりに少し乗せてもらってどんどん技術を向上させていく。上手くなれば馬にかかる負担が少なくなる。難しい理想ではありますが、馬への感謝を忘れずに、一流のホースマンを目指して、日々努力していこうと思います。



2騎併走騎乗訓練（800mトラック砂馬場）



浦河町町民馬術大会（鈴木君）



騎乗訓練（グラス馬場）

「理想に繋げる」

育成調教技術者養成研修 第31期生 高橋 有伽

自分の目標を掲げて、私達は6ヵ月前 BTC 研修に入講しました。BTC ではただ馬に接することだけではなく、人との繋がりも学べる場所です。また、騎乗訓練や厩舎作業だけでなく、様々なイベントや課外研修もあります。例えば、襟裳岬、札幌トレーニングセールや牧場見学、アポイ岳登山、町民馬術大会、牧場実習やJRA 馴致実習などです。その中でも、私が特に印象に残っている事が二つあります。

一つ目は牧場実習です。BTC での作業の仕方や馬の扱い方しか知らなかった私達にとって、牧場実習はとても新鮮なものでした。裏掘りの仕方や曳き馬のやり方、作業の手順など牧場によって様々で、最初は戸惑いもありましたが、一週間の実習の中でその牧場にあったやり方での作業を行ってきました。あくまでも、このBTC 研修で行っているのは、馬を取扱うための基本ですが、それはどの牧場でも同じというわけではありません。一つのやり方にとらわれないことが重要だと感じました。卒業後の進路に向けて、この牧場実習は貴重なものだったと思います。

9月に入り、二つ目のJRA 育成馬の馴致に参加させていただきました。右も左もわからない若馬に決まり事を教えていくということは簡単なことではなく、一つ一つ若馬に理解させて教えていくということが本当に大切なのだと感じました。馴致するという事は、短気にならず忍耐力が大事だと思いましたし、若馬が人の言うことに従わない時でも、感情的にならず、根気強く続けていくということが馴致を行う上で大切だと思いました。人と同じように馬にも個性があります。馬の反応、状態によって行っていく手順ややり方を変え

たりするなど、馬に敏感にならないといけないのだと思いました。また、馴致では何もわからない若馬に、どうしたいのかハッキリ伝えることが重要です。今まで当然だと思ってやってきたことは、若馬には通用しないので、より神経質になり行っていくということ、そして馬の繊細さに改めて気づかされました。

実際に馴致を体験して、ダブルレーンでの調馬索運動など、想像していた以上に操作するのが難しいもので、人に意識を向けるのも非常に難しいものと改めて感じました。この経験は、実際に自分たちが就職してから馴致を行う場合のみならず、手入れや馬を調教するときにも役に立つと考えています。

このBTC 研修は、人との繋がりや自分の意識を高める場であり、今までの自分より、より一層人として大きく成長できる場だと私は思います。今後、ここで学んだこと一つ一つを生かしていき、自分の理想のホースマンを目指して、その理想に近づけるよう、日々努力していきたいものです。



アポイ岳登山



浦河町町民馬術大会（高橋さん）



騎乗訓練（グラス坂路馬場）

『馬と共に』

軽種馬育成調教センター 養成担当者 武藤 英和

初めに、この場をおかりしてBTCおよび牧場関係の皆様にご挨拶申し上げます。昨年5月からJRA日高育成牧場より、事務援助としてBTC日高事業所・技術普及課教育係で勤務させていただいている武藤英和と申します。どうぞよろしくお願い致します。

さて、この度教育係としての仕事を始めて5ヶ月が過ぎようとしています。その5ヶ月間、私が生徒と過ごして感じたこと、これから馬の世界に出ていく彼等に伝えておきたいことを綴らせていただきます。

まず、生徒と接していて感じることは、それは皆馬が好きなのだということです。馬のプロフェッショナルになることを目指して、遠路はるばる浦河にやってくるわけですから、当然といえば当然ですが。しかし、単純に馬が好きという気持ちが、これから彼等にとってどれ程大切になってくるのか、自分自身を奮い立たせるための武器になるのか、生徒達はまだ気づいていないことでしょう。今はまだ研修期間中、教官も厳しく指導する時もありますが、あくまで生徒のレベルに見合った厳しさであり、無理な要求をしていないのが現状です。

しかし、研修期間を終え、馬のプロとしてBTCを卒業すれば、彼等のレベルに合わせた要求ではなく、要求する側のレベルに彼等が合わせていかななくてはなりません。厩舎作業、騎乗技術、人間関係など、新人として沢山の壁にぶつかることが想像されます。つらい時期も必ず訪れることと思います。

そんな時こそ、BTCに入講した当時の馬が好きという気

持ちが自分を支えてくれるはずですよ。以前より上手く騎乗できるようになった、コミュニケーションを上手にとれるようになった、馬が心を開いてくれた、そんな事を実感できた時に馬が好き、馬の仕事は楽しいという気持ちがより一層強くなることでしょう。そして、向上心や好奇心が無ければ、自分を成長させることや馬を深く理解し喜びを共有することなどは不可能だということも、併せて覚えておいてもらいたいと思います。

研修期間も残すところおよそ半年となりましたが、未来の自分のために、これから自分が関わることになる馬達のためにも、一日一日を大切に、知識の習得、技術の向上に励んで欲しいと思います。卒業する時には胸を張って馬大好きと言えるように、そして、その気持ちでどんな壁も乗り越えていける立派なホースマンになってほしいと願っています。最後にひと言、円滑に仕事をこなすためには人間関係も非常に大切です。そこもお忘れなく(笑)。



グラス坂路帰り道



グラス坂路調教(白帽が教官)



種牡馬見学(ダーレー・ジャパン・ファーム)